



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

理学図書室統合リニューアル	1
秋季特別展展示資料紹介	2
ラーニング・commons	
ー使える空間・使えるサービス	4
流域伝来の歴史情報資源データベース	
日比家文書について	6
利用者からみた図書館	7
本学教員著作物寄贈リスト	8
大募集!	
第2回図書館をよくする学生アイデアコンテスト	10

《図書室紹介シリーズ》

理学図書室統合リニューアル

河 合 成 典

従来、理学部の図書室は各学科（数理、物理、化学、生命理学、地球惑星科学）毎に設置され、場所も理学部エリアに点在しており、図書資料はそれなりに揃っていましたが、スペース・設備・正職員（1～2名、そして更なる定員削減）とも貧弱であったため多くの利用者に快適な学習・研究環境、十分なサービスを提供する場とは必ずしも言えませんでした（常連さんにとっては静かで落ち着いた隠れ家的な雰囲気もありよかったかもしれませんが）。また、資料及び業務の重複など無駄な面も多くありました。

そこで各学科図書室の統合によるスケールメリットを活かした新図書室の構想が具体的な検討に入って以来、紆余曲折の末、数年の歳月を経て7月15日、《理学図書室》として開館の運びとなりました。

さて、新図書室の場所ですが、地下鉄の出入口、バス停から東へ豊田講堂を見上げながら理学部エリアへ至るメインストリート？を歩くこと2～3分、いわば理学部の玄関ともいえる建物A館の1階及び2階に位置します。同じくA館の1階には来年度に移転してしまいますが益川敏英・小林誠・下村脩博士のノーベル賞受賞を記念して設置された展示室、すぐ隣のB館1階には学生ラウンジが予定されており、学生の往来、集いの場に近接している最適な場所（風水的にいいかどうかはわかりませんが）となっ

ています。ただ、耐震改修済の東西方向にかなり細長い建物A館を改修・改装した関係で広々とした開放的な空間が実現できなかったことは残念です。ちなみに東西方向100m、南北方向16m。細長さが想像できるでしょうか？

それでは図書室内を順番に紹介していきます。



写真1 利用者カウンター

まず、入口入ってすぐ左側には理学部らしい？デザインが施された利用者カウンター（写真1）。このカウンターでの貸出・返却処理は今までレトロな代本版方式でしたがオンラインシステム化（バーコード読取方式）され、今さらの感はありますが大変便利になりました。カウンターの前には情報室（今のところコピー室兼製本室）、新着雑誌室（写真2）。この2部屋だけは耐震上の問題はありませんがなんとかクリアし廊下側の壁をガラス張りにしたため明る

く開放的な雰囲気になっています。

カウンター隣事務室を隔てた南側4部屋の開架スペースには主に物理、化学、生命、地球関係の図書及び参考図書、新着図書等が排架され窓側に閲覧席が設けてあります。一番端の西側のスペースは従来の数理図書室ゾーンをそのまま生かし数学関係の資料群を排架しています。また、1階北側の大部分を集密化（主に製本雑誌を排架）することで狭隘状態も少なからず解消され、利用者スペース（閲覧座席数全137席）も多くとることができました。

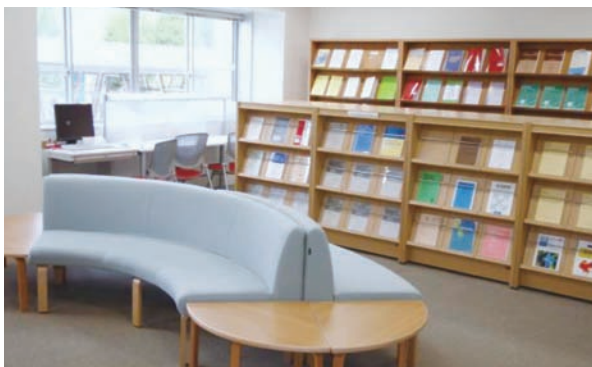


写真2 新着雑誌室

1階西側突き当りの階段を上ると2階北側は閲覧室、AV室、南側は地図・地質図書、貴重書室（ヒルベルト文庫）、多目的室（写真3）等、様々な用途の部屋が設けてあります。多目的室は移動可能なイス、台形テーブルにより自由にレイアウトでき、1部屋をスライディングウォール（ホワイトボードとしても使用可）で区切ることで数名から20数名ぐらいのグループ学習、セミナー等を開催することができます。もちろんプロジェクトも使用可能で、無線LANも図書室のどこからでも繋がるようになっています。ここは予約がない限り自由に使うことが可能で、静謐を保つ必要がなく自由闊達な議

論ができる空間となっており、窓の外に目をやれば木漏れ陽の向こうに広がる緑の絨毯、疲れた頭も癒されるかもしれません。

次にセキュリティ対策ですが、新図書室は細長くて部屋の数（24室）も多く、職員が目が届きにくくなっているため各部屋には防犯ブザー、出入口及び全ての非常口には防犯カメラを設置してあります。地震対策としては開架書庫の上4段に感震式書籍落下防止装置を取り付けてあります。

その他、新たに取り入れたシステムとしてコ



写真3 多目的室

ピー機の利用認証に職員証・学生証を使えるようにしたことです。まだ始めたばかりで色々不都合もありますがこれにより利便性・管理機能とも向上する予定です。

以上、紹介したように新たなスペースに人、物が物理的に統合され“学問の息吹を感じとれ学習意欲が高まる場”としての環境は整いましたが、開館して3カ月あまり、これらが有機的に機能していくためにはまだまだ多くの課題が残されています。今後、皆様のご意見も参考に改善してゆきたいと思っておりますのでご利用をよろしく申し上げます。

（かわい・しげのり 理学図書室）



秋季特別展「アダム・スミスと啓蒙思想の系譜」

10月14日(木)～11月11日(木)

展示資料紹介

中央図書館では11月11日（木）まで、2010年秋季特別展「水田文庫新収蔵記念 アダム・スミスと啓蒙思想の系譜」を開催しています。

水田文庫は、水田洋本学名誉教授が60年にわ

たって構築してきた社会思想史蔵書のうち、16世紀末から19世紀後半に至る基幹部分を成す約7千冊を受入れたものです。今回の展示では、その中から、水田先生の研究の中核であるアダ

ム・スミスを中心に、ヨーロッパ啓蒙思想家たちの著作原典を厳選して紹介しています。

展示は4部構成になっており、展示室入口左側から右回りで、I. 自然法思想から啓蒙思想へ、II. スコットランド啓蒙思想、III. アダム・スミス思想体系の形成、IV. アダム・スミス思想の批判と継承の順で展示しています。

ここで今回の展示会に出展されている図書をいくつかご紹介しましょう。

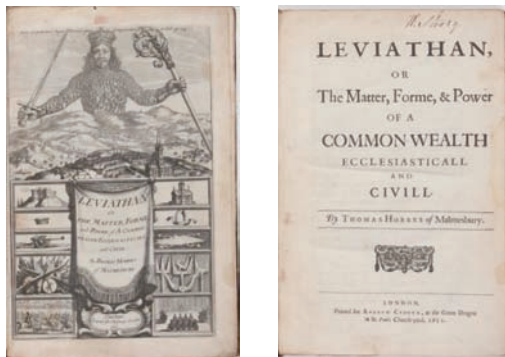


ユストゥス・リプシウス『政治学 六巻』(第4版?、1599)

実践的な政治論をめざすため範例集(経験的知恵の集成)という体裁をとっています。

表紙は全面に飾り模様が型押しされた明礬なめしの革で装丁されており(表紙の芯板は木の板です)、金属の留め金つき。おもて表紙の中央部分にはイエズス会の紋章が焼印で押された別革が貼りこまれており、過去にイエズス会所属の教会あるいは修道院などで所蔵されていたのかもしれません。

トマス・ホッブズ『リヴァイアサン』(初版、1651)



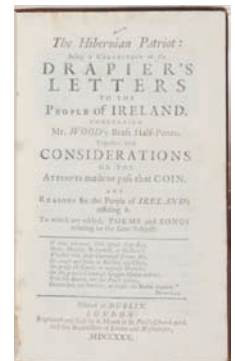
『リヴァイアサン』は教科書に出てくるのでご存知の方が多いかもしれません。ホッブズの主要著作で、心身の能力において平等な個々の人間は、自己保存のためにすべてのものを利用する権利を自然権として有するとしており、し

かしそうした人間の自然状態は「万人の万人に対する戦争」状態であり、生きるための殺しあいというこの矛盾から脱却するために、自然理性の戒律である自然法は、平和を求め、そのために自然権を互いに放棄し、社会契約による絶対主権の設定を教えると述べています。

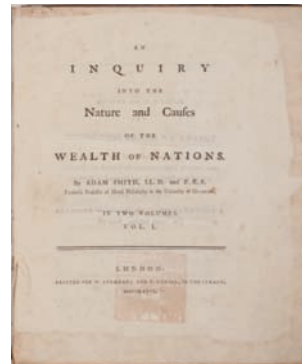
この図書の初版には3種類あることが知られており、今回はその3種類を並べて展示しました。タイトルページを比べてみると、その違いがわかります。

ジョナサン・スウィフト『ドレイピア書簡集』(リプリント版、1730)

『ガリバー旅行記』で知られるスウィフトの書簡集で、イギリス政府を糾弾する数々の匿名公開状が集められています。



アダム・スミス『国富論』(初版、1776)



スミスの主要著作のひとつ。今回展示しているのは、経済学図書室所蔵の1点。

『国富論』は先行したサー・ジェイムズ・ステュアート(Steuart, James, Sir, 1712-1780)の『経済学原理』(*An inquiry into the principles of political economy*, 1767)とともに最初の経済学体系として知られています。第2展示室には、参考図書としてファクシミリ版(水田文庫収蔵)が置いてありますので、手にとってご覧いただけます。

このほか、冤罪事件として有名なカラス事件関係の資料や、イギリスの植民地政策にかかわる資料(インド史関係など)もあります。また、参考展示として、スミスの直筆署名(がはいった書類(関税委員会の命令書)を製本したもの。経済学図書室所蔵)、スミスの蔵書票が貼られた図書(中央図書館永井文庫収蔵)を第2展示室に展示しています。

なお、特別展にあわせて講演会も開催しますので、ぜひお立ち寄りください。

水田文庫新収蔵記念 アダム・スミスと啓蒙思想の系譜

<展示会>

期 間：2010年10月14日（木）～11月11日（木）

9：30～17：00（日曜・祝日は閉室）

場 所：中央図書館4階展示室

<講演会>

日 時：2010年10月30日（土）13：30～16：30

場 所：中央図書館5階多目的室

講師と演題：水田 洋（名古屋大学名誉教授、日本学士院会員）

「ぼくらの思想形成と蔵書形成」

田中秀夫（京都大学大学院経済学研究科長、教授）

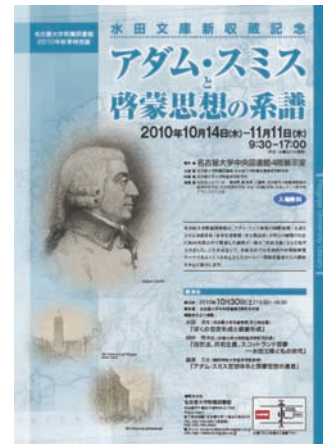
「自然法、共和主義、スコットランド啓蒙－水田文庫と私の研究」

篠原 久（関西学院大学経済学部教授）

「アダム・スミス思想体系と啓蒙思想の遺産」

※講演会終了後に、展示室にて水田先生による展示解説を予定しています。

（情報サービス課）



ラーニング・コモンズ —使える空間・使えるサービス—

中央図書館2階のラーニング・コモンズ全面オープンから1年弱が経ちました。定期試験前には連日ほぼ満席になるなどよく利用されています。

この空間を活用した新しいサービスも開始しています。今後もサービスの充実をはかっていきますので、多くの方のご利用をお待ちしています。

■学習空間

資料探しから研究成果をレポートやプレゼンテーションの形で発表するまで、学習活動のさまざまな場面をサポートする空間を用意しています。

▶ グループラーニングエリア

自主ゼミなどに、PCやプロジェクタが使えます。セミナールームの貸切利用も可能です。ゼミ発表の予行演習などにご利用ください。

プロジェクタの利用・セミナールームの貸切は受付カウンターで予約を受け付けます。

▶ ライティングサポートエリア

レポートやプレゼンテーションの作成にご利用ください。画像が扱えるデザインソフトがインストールされたPCが設置されているほか、英語論文の文法などをチェックできるノート

PCの貸出を行っています。

エリア内には大学での学びや論文執筆、プレゼンテーションに関する図書のコーナーがあります。



■学習・研究の支援

▶ 総合サポートカウンター

資料検索・図書館利用・PC利用などについて、大学院生のサポートスタッフが質問に答えます。

英語・中国語でのサポートも行っています。

※開設時間：平日15：00～19：00

▶ ピアサポート

学生相談総合センターで訓練を受けた学生相談員が、学習・部活・アルバイト・一人暮らし…など学生生活の相談に応じます。

▶ レポート、プレゼンテーション講習会

高等教育研究センターと共催で、学習スキル向上のための講習会を開催しました。今後も年に数回開催予定です。館内ポスター、ウェブサイトでご確認ください。

（情報サービス課）

流域伝来の歴史情報資源データベース 日比家文書について 辻 公子

附属図書館のホームページ内にあるエココレクションDBには、高木家文書・伊藤圭介文庫・GIS木曾三川流域環境史が公開されているが、2009年度から、流域伝来の歴史情報資源というコンテンツが加わった (<http://libstl.nul.nagoya-u.ac.jp/eco/hibike.html>)。



図1 流域伝来の歴史情報資源 DB

これは木曾川流域に伝来する古文書や絵図などを公開するものであり、高木家文書を核として、関連する史資料や学術情報を複合的に把握することを可能とするものである。現在は日比家文書DBを公開しており、以下このDBを紹介する。

日比家文書は、美濃国石津郡沢田村（現岐阜県養老郡養老町沢田地区）の庄屋役を務め、維新後は、旧養老村の戸長や村長を務めた豪農日比家に伝来した約5900点の文書群である。このなかには、寛永8年（1631）から明治期に至る年貢免状や皆済目録、村役人をめぐる争論史料、幕末の江濃運河の実態を示す史料など、江戸時代から明治・大正・昭和にかけての村の運営や生活、地域社会などに関わる内容が豊富に含まれている。沢田村は揖斐川中流域にあたり、このため川普請や水論に関する文書も多く、高木家文書との関連性もみられる。また、DBには未登録であるが、日比家文書には古文書類のほか、火事装束2組と日露戦争の出征兵士壮行の幟もあわせて収蔵している。2005年秋に本学へ寄贈され、翌年、附属図書館2006年秋季特別展「江戸時代の村と地域 一美濃養老・日比家

文書にみる暮らしと災害一」（9月29日～10月20日）において、その概要を紹介した。詳細は同展示目録をご参照いただきたい。

DB検索にはキーワードを入力する「詳細検索」と大・中・小項目を選択する「カテゴリー検索」が用意されている。カテゴリー内の分類項目として、I 近世村方、II 近世経営、III 近代行政、IV 近代経営、V 神社、VI 書籍・写本、VII 絵図、VIII その他、欠番の大項目があり、そのなかに適宜中項目、小項目を設けている。基本的にIからIVは、明治4年（1871）11月の岐阜県成立を画期として近世と近代を分類するが、VからVIIIは時代別分類をしていない。検索結果には、標題、請求番号、年号などの文書データや史料画像のサムネイルの一覧が表示され、そこから史料を選択すると、画像と文書内容が表示される。画像データは、拡大して史料の形態や文字を確認することができる。



図2 個別絞込結果画面

2011年4月には、高木家の旧家臣であった小寺家に伝来する小寺家文書が、流域伝来の歴史情報資源DBに加わる予定であり、日比家文書との横断検索も可能となる。また、川普請や水論に関する史料については、高木家文書DBにも重複登録されており、どちらのDBからも情報を検索することが可能である。現在、日比家文書DBをもとに、紙媒体目録の刊行準備をすすめており、こちらも併せて活用されることを期待している。

(つじ・きみこ 附属図書館研究開発室)

《利用者からみた図書館》

図書館で過ごす時間

大内麻衣

図書館は、私にとって誘惑の多い場所だ。図書館に行くときは、レポート作成や勉強を目的とすることが大半なのだが、そういうときに限って、目的とは関係ない本に手を伸ばしてしまう…。図書館は、東急ハンズに行った時に感じるような、とても早い時間の流れを持っているように思う。東急ハンズという場所は（別にloftでもいいのだけど）、興味をひく商品がたくさんあって、目的の品物を買うまでに寄り道をしてしまい、自覚なく長時間滞在してしまうという場所で、図書館は興味深いタイトルで本が誘惑してくるから、つい手にとってパラパラと見てしまうことによって、いつの間にか時間感覚を失い、長時間滞在をしてしまう場所だと思うのだ。

私が、図書館で時間を時計通りに感じられないのは、本が好きだからだと思う。どうして本が好きなのかというと、本を読むと新しいことがわかるから。いろんな考え方に触れることができるから。刺激になるから。違う世界にとんでいくことができるから。だから、本が好き。本のたくさんある図書館が好き。いろんな世界を見ることができる素敵な場所だ。たくさんの人に利用して欲しいと思う。1人で本を読むだけでなく、友達と一緒に行って、この本、良かったよ。などと言いながら、自分では選ばない本に出会って新しい世界を見つける場所にしてほしいと思う。

それから、図書館は読書するだけでなく、勉強やレポート作成をする場所でもあると思う。理学図書館は、小さい部屋がいくつもあって、自分のお気に入りの場所を見つけることができ

る。それは、中央図書館よりも、私にとっては、ちょうどいい雰囲気で居心地が良い。読書だけではなく、落ち着いて勉強をすることができる。私が、学部生の時は、休日にふらりと図書館に行って、自分のお気に入りの場所で、勉強や読書の間に、眠くなったらまどろんだりして、これもまた、だいぶ長い時間を過ごしていた。

長い時間を過ごす図書館に、あったらいいなと思うスペースを思いついた。それは、飲食オッケーで、おしゃべりオッケーなスペース！！本が汚れてしまうといけけないので、本の持ち込みはダメでもいい。レポート作成のとき、締切間際で、ご飯を外に食べに行く時間が惜しいことって、結構ある。まあ、締切間際にやっているのがいけけないと言われてしまえばそうなんだけど…。本に没頭しているとき、このまま図書館の雰囲気を途切れさせたくない時も、ある。そんなスペースがあったら、ご飯の時間がちょっと短縮して、レポートに余裕が生まれたり、お腹の虫と戦わずに、読みたい本が一日で読破できるかもしれない。部屋の予約なしに友達と一緒に勉強を思う存分できるし、わからないところがあれば、すぐに参考書を探しに行ける。最近読んだ本の話をした後、すぐに借りに行ける。そんなスペースができれば、図書館という場所は、もっと魅力的な場所になることだろうと思う。そして、図書館独特の時間の流れをいろんな人に感じてもらいたいと思う。

(おうち・まい

理学研究科博士前期課程1年)

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成22年6月～8月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

所 属	寄 贈 者 名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配 置 場 所
環境学研究科	夏原 由博	保全生物学：生物多様性のための科学と実践／Andrew S.Pullin著；井田秀行〔ほか〕共訳。－丸善，2004. 3	11466675	中央学 3 F 468/P
環境学研究科	夏原 由博	地球環境と保全生物学／鷺谷いづみ〔ほか〕著。－岩波書店，2010. 2	11703694	中央学 3 F 461/W
名 誉 教 授	野村 浩康	全国大学の研究活性度／野村浩康〔ほか〕著。－2007。－トランスアート，2010. 4	11708803	中央学 3 F 377.7/N
留学生センター	坂野 尚美	神経難病患者と家族のための相談援助：よくある相談によりよく応答するハンドブック／坂野尚美著。－高菅出版，2010. 5	11709555	中央学 3 F 493.73/B
留学生センター	徳弘 康代	日本語学習のためのよく使う順漢字2100：付録CD-ROM：漢字語彙3万6千語：学習指標値付き／徳弘康代編著。－三省堂，2008. 4	11709553	中央学 3 F 813.19/To/ 留学生
情報科学研究科	小池 直人	世界における人間／N.F.S. グルントヴィ著；小池直人訳。－風媒社，2010. 6	11711533	中央学 3 F 114/G
名 誉 教 授	江口 昇次	ダイヤモンド分子アダマンタン：特性と用途／江口昇次著。－三恵社，2010. 5	11711466	中央学 3 F 437.01/E
名 誉 教 授	神尾 美津雄	The twilight realms of consciousness : from romantic to postmodern / Mitsuo Kamio. - Eihōsha, c2010	41510691	中央図 4 F 930.2/Kam
医学部保健学科	本間 光彦	医療被ばく：患者さんの不安にどう答えますか？ = Medical exposure : how would you deal with your patient's anxiety? / 本間光彦，諸澄邦彦編著；日本放射線カウンセリング学会，日本放射線公衆安全学会編集。－改訂版。－PILAR PRESS，2010. 7	11715328	中央学 3 F 492.4/H

所 属	寄 贈 者 名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配 置 場 所
法 学 研 究 科	大 屋 雄 裕	生：生存・生き方・生命／加藤秀一責任編集。－岩波書店，2010. 7.－（自由への問い；8）	11716764	中央学 3F 316.1/Ka
経 済 学 研 究 科	山 田 基 成	モノづくり企業の技術経営：事業システムのイノベーション能力／山田基成著。－中央経済社，2010. 6	11717172	中央学 3F 336.17/Y
総 合 保 健 体 育 科 学 セ ン タ ー	佐 々 木 康	闘野の思考：スポーツ映像論／佐々木康著。－創文企画，2010. 8	11716887	中央学 3F 780.14/Sa
国 際 言 語 文 化 研 究 科	中 村 登 志 哉	Strukturen globaler Akteure : eine Analyse ausgewählter Staaten, Regionen und der EU / Franco Algeri, Arnold H. Kammel (hrsg.). - Nomos, 2010	41512733	中央図 1 F 319.3/Al

なお、前号（No.176）の記載に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

教 育 発 達 科 学 研 究 科	松 田 武 雄	現代社会教育の課題と可能性：生涯学習と地域社会／松田武雄著。－：新装版。－九州大学出版会，2009.10	11705627	中央学 3F 379.1/Ma
教 育 発 達 科 学 研 究 科	吉 田 俊 和 元 吉 忠 寛	体験で学ぶ社会心理学／吉田俊和，元吉忠寛編。－ナカニシヤ出版，2010. 4	11705628	中央学 3F 361.4/Y

（資料管理掛）

第2回

大募集！ 図書館をよくする学生アイデアコンテスト

今年も図書館の改善アイデアを募集します。

今年は2つの部門に分けています。

第1部門 名古屋大学の附属図書館を便利で快適なスペースとするための身近で具体的なアイデア。

第2部門 図書館をよりよくするための大きなアイデアや夢をまとめてください。

今後の図書館運営の参考にさせていただきます。斬新なアイデアをお待ちしています。優秀なアイデアには賞品を進呈します。どしどしご応募ください。

応募資格：名古屋大学に在籍する学生（メールで連絡が取れること）

応募方法：A4判の用紙1枚にアイデアを記入し、メールで提出してください。

応募先：e-idea@nul.nagoya-u.ac.jp

しめきり：2010年11月30日（火）

選考方法：応募書類を選考委員会で審査し、各部門優秀賞1点、佳作数点を決定します。

12月中旬に賞品授与・懇談会を予定しています。

詳細は、附属図書館のホームページ<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp>をご覧ください。

➤➤➤➤➤➤➤➤➤ お知らせ ➤➤➤➤➤➤➤➤➤

☆ 理学図書室Renewal Open

理学部各学科図書室は統合準備のため閉室しておりましたが7月15日（木）

理学図書室としてOpenしました。

場所：理学部A館1階、2階

開室時間：9：00～17：00（月、火、木）

9：00～20：00（水、金）夜間開室試行中

[行事等] <22.6.6～22.9.5>

- ・トークサロン「ふみよむゆふべ」（中央図書館多目的室）参加者：41名〈6/22〉
- ・図書系職員初任者研修（中央図書館多目的室）参加者：22名〈6/29-30〉
- ・平成22年度学術ポータル担当者研修（名古屋大学附属図書館）参加者：30名〈7/28-30〉
- ・図書系職員研修「図書室運営（初級）」（中央図書館小会議室）参加者5名〈8/2〉

編集委員会

- | | |
|------------|----------|
| 増田 晃一（委員長） | 田中 暢彦（中） |
| 安福 奈美（中） | 森 彩乃（中） |
| 久納 優希（文） | 山本 利幸（法） |
| 吉岡美智子（工） | 浅見沙矢香（農） |